

目的：児童・生徒にとって興味関心がある調理学習であるが、現状における問題点は多い。調理実習における作業参加度の低さ、作業要素の少ない教材では、手まがいが遊びにつながるまでいわれている。いつも時間と隣り合わせで進められている学習、また作業過程を部分的にのみ担当することが多いこと等から知識技能等の点でも問題となる。そこで調理実習において、これらの問題を少しでも解決できればと考え、調理実習時における学習指導法を開発し実践検討を行った。〈チェーン学習〉本研究は、さらに調理計画段階の学習指導法を、能率化を図る・考える場をもうける・知識を積極的に得る等の観点から考え、実践検討を行った。

方法：本実習前に、班の中で代表者が一名、学級全員の前で、用具を使用し、学習内容を言語化・動作化する。代表者が間違えた言語化・動作化した時、あるいは、それに対して意見がある時、観察参加者が挙手をする。その後質問・意見を出し合い全員参加のもとに学習活動が行われる学習形態とした。〈模擬学習〉教材は小学校第六学年「サンドイッチを作ろう」授業後、模擬学習について児童・授業参観者に、三段階評価法、自由記述法、文章完成法により調査を行った。

結果：①授業参観者による模擬学習に対する評価は、高かった。（知識の強化・学習の効率化等）②児童は、模擬学習をみて、まちがいがわかったり、考えたりした者が多い。③模擬学習の名称について、一部の授業参観者より、他の名称がよいとの意見が出された。